

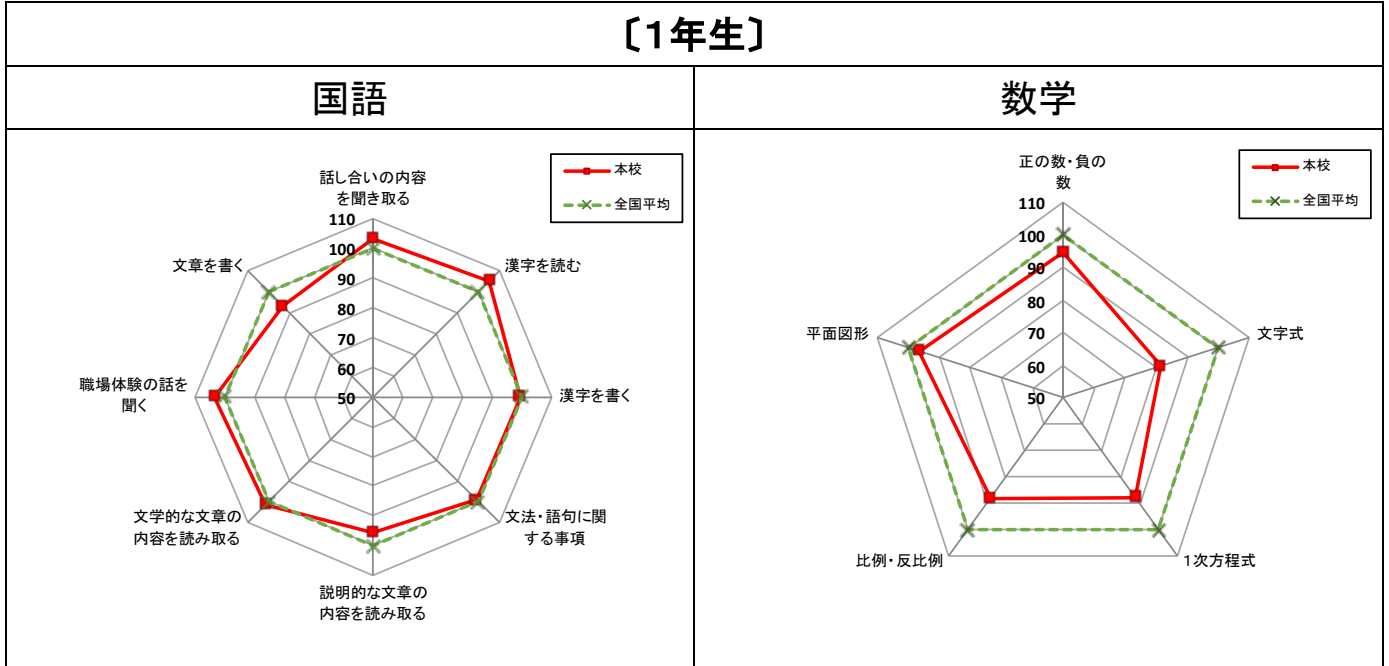
令和4年度釧路市標準学力検査の結果分析について〔釧路市立景雲中学校〕

令和5年2月6日

過日、令和4年12月に実施しました標準学力検査の結果が届きましたので、本校の結果を分析し、今後の対策や教育活動等の改善について検討したところです。つきましては、その概要と今後の取組の方向性をお知らせいたします。すでに配付している個人票とあわせてご覧いただき、学習や生活の見直しに活用していただけるようお願いいたします。

レーダーチャートは、各教科の問題内容の目標値を100とした場合の本校及び全国平均の状況を示したものです。

〔1年生〕



【分析】 ○成果 ●課題

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 校内平均正答率は、目標値を上回り、全国平均正答率と同程度だった。 ○ 「話し合いの内容を聞き取る」「漢字を読む」「職場体験の話聞く」の4つ内容で、全国平均正答率を1～3ポイント上回った。 ○ 「文学的な文章の内容を読み取る」「漢字を書く」「文法・語句に関する事項」の内容は、全国平均正答率と同程度だった。 ● 「説明的な文章の内容を読み取る」「文章を書く」の内容は、全国平均正答率を2～3ポイント下回った。 ● 前年度校内平均正答率と比較すると、特に「言語文化」「話すこと・聞くこと」「書くこと」で10ポイント以上下回った。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「1次方程式」の等式の性質の理解を問う内容で、全国平均正答率を4ポイント上回った。 ○ 「正の数・負の数」の内容で、基準をもとに正負の数を使って得点差を表す問題や素因数分解する問題の正答率が、全国平均正答率と同程度だった。 ● 校内平均正答率は、目標値を7ポイント、全国平均正答率を5ポイント下回った。 ● すべての内容で全国平均正答率を下回り、特に「文字式」「1次方程式」「比例・反比例」で5ポイント以上の差があった。 ● 前年度校内平均正答率と比較すると、特に活用の正答率が17ポイント下回った。 |
|--|--|

生活行動・学習活動調査の結果から

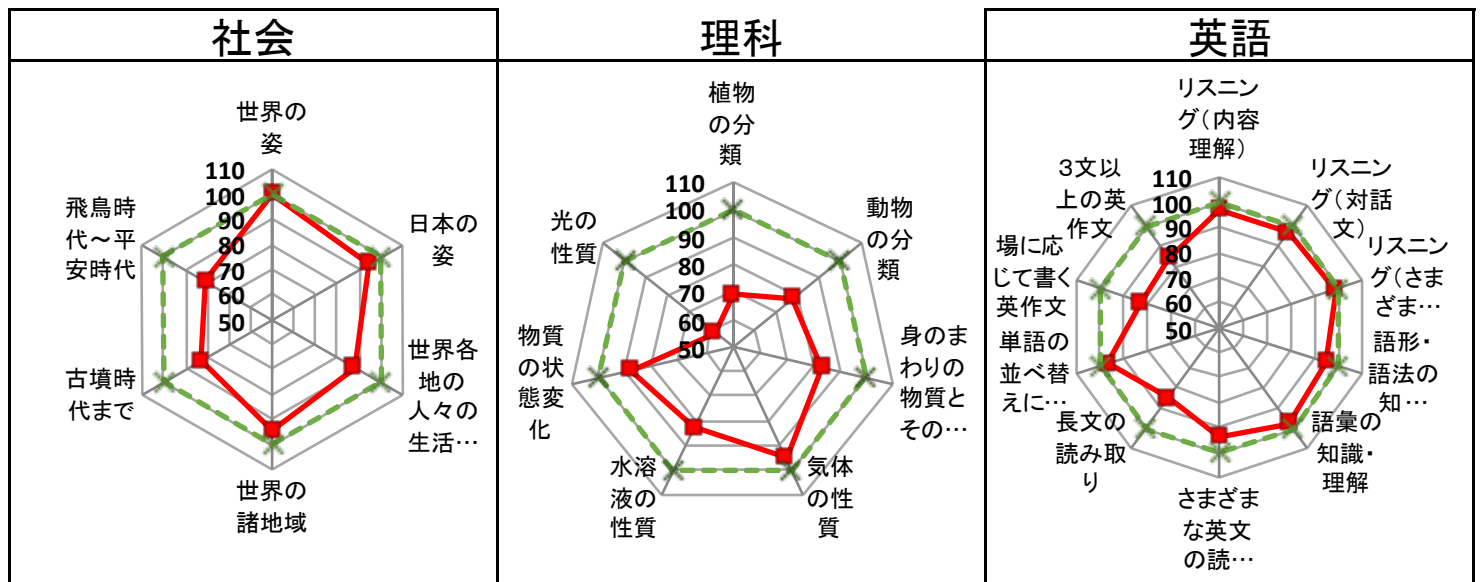
- 「朝食や夕食をきちんと食べている」「挨拶をしている」の肯定的な回答の割合は全国と同程度で、90%以上を占めている。
- 「自分は、「友達から先生から・家の人から」認められてと思う」の肯定的な回答の割合はどれも全国を上回り、70～80%を占めている。
- 「自分の力をできる限り伸ばしたいと思う」の肯定的な回答の割合は全国と同程度で、90%を超えている。
- 「将来の夢や目標をもっている」の肯定的な回答の割合は60%を切り、全国より20ポイント以上低い。特に、学力検査正答率の中位層の肯定的な回答の割合が最も低い。
- 「自分のことが好きである」の肯定的な回答の割合は、全国より10ポイント低く、40%程度である。
- 平日の就寝時刻が全国よりも遅い傾向にあり、11時を過ぎる回答は40%近い。さらに12時を過ぎる回答は24%。一方で、平日の学校以外での学習時間は、全国よりも短い傾向にあり、過半数が、1時間未満である。

【今後の本校の取組】

- ◎ 話し合いを通して聴き合う関係を築き、「協働的な学び」の基盤となる学びに向かう学習集団づくりを目指します。
- ◎ 授業においては、どの教科でも「学び合い」「教え合い」の場面を設定し、仲間とともに思考したり自分の考えを表現したりして、思考力・判断力・表現力を伸ばします。
- ◎ とくに授業の導入では、問題を工夫して「なぜだろう」「やってみよう」と前向きに取り組めるような課題を生徒と一緒に設定します。
- ◎ 授業の終末では学習内容を振り返る場面を設定し、わかったことや疑問、学習内容をどう生かすかなどを共有し、学習内容の定着だけでなく個々の学びに向かう態度を育てます。
- ◎ 各教科で各場面を設定し、「指定された条件で書くこと」の改善を目指します。
- ◎ 総合的な学習の時間(DT)や学校行事を有効に活用し、将来の夢や目標を持ち、地域社会に尽力しようとする生徒を育てます。

【家庭にお願いしたいこと】

- ◎ 就寝時刻が遅い一方で、学習時間が短い傾向にあります。生活リズムと学習習慣の確立のためのお声かけをお願いします。
- ◎ 就寝時刻が遅いことや学習時間が短い一因として、スマホなどによるSNS利用や動画視聴などが考えられます。お子さまの状況を把握していただき、適切な範囲での使用となるようご指導をお願いします。



教育講演会「脳を知り、脳を育み、脳を鍛える」講師：川島 隆太 氏

先日、教育講演会で川島隆太氏のお話を聞かせていただきました。スマホやタブレットの使用と学力の相関など、ぜひ多くの保護者の方にも知っていただきたい内容だったので紹介します。

以下にお伝えする内容は、どれも脳波測定や各種データによる**科学的根拠に基づいて**講演会でお話しされていたものです。そうだよな、やっぱりなと思うこともたくさんありましたが、データで“見える化”されたことで、非常に説得力のある内容でした。

<子どもの脳の成長を阻害するスマホ>

- YouTube 視聴時の脳の働きは、寝ている時と同程度であり、全く思考していない。だから何時間でも見ていられる。
- インターネットを毎日1時間以上利用していると、**脳の発達を止める**。例えば、中学1年生が小5から3年間毎日利用していたら、**脳は小学5年生のまま**。その脳に中学1年生の授業をしても、理解できるはずがない。
- 子どもの脳の発達を止めるだけでなく、大人の脳を老化させることもデータで明らかになっている。
- 大人でも、メディア利用時間が長いほど注意力が低下。長時間利用のうち2割は10秒程度しか注意力が持続しなく、これは金魚と同レベル。

<親の影響大>

- 中学生向けに、スマホ利用とその影響に関するデータを与えてそこからどんなことが読み取れるかを考える授業を行うと、「スマホ使用を控える」「節度を持ってスマホを使用する」という感想が大半を占める。一方で、全く同じ授業をPTAに行くと、「危険性はよくわかった。**でも便利だし必要**」という回答がほとんど。だから、せっかく授業を受けて使用について見直そうとしていた中学生が家に帰ると、使いたい放題に使っている**親の姿を見て、結局は使ってしまう**。

<スマホと学力>

講演会では、学力とスマホ使用時間や学習時間、睡眠時間の関係をグラフでわかりやすく示していましたが、手元にグラフのデータがないので、簡単にまとめると、以下のような内容になります。

- スマホを毎日1時間以上使用している場合、家庭学習をやっても平均点を超えるのは困難。
- 家庭学習中にスマホを使う時間が長いほど、学力が低い。
- 家庭学習中に使用するアプリの数が多いほど、学力が低く、さらにうつ傾向も。
- LINE 1時間以上利用していると、家庭学習を増やしても平均点を超えるのは困難。
- LINE 通知音が鳴っただけで、集中力が低下する。だから、学習中は電源をオフに。
- **スマホやタブレットを学習に利用したとしても、1時間を超えると、使うほど成績が下がる。**
- 辞書で調べたら脳は働くが、スマホやタブレットで調べても脳は働かない。

<学校教育とタブレット>

- リモートでは“共感の脳”は働かない。だから**教育は対面が必須**。
- **個別学習でのタブレット使用は、やればやるほど成績が下がる。**
- グループ学習に使用することは、成績に悪影響はない。
- 脳を十分に働かせ、想像力を育むには、**読書**が最適。

この内容を真摯に受け止め、学校としてもタブレットの利活用について、再検討をしなければいけないと感じています。同時に、ご家庭でも早急な対応が求められます。